

Club Unisys

MAGAZINE

卷頭言

野中ともよ

さん(ジャーナリスト)



SEPTEMBER 2003
No.008

特集

.NETでビジネスを加速

XML Webサービスが実現するシームレスなビジネスの世界

ユーザ事例 ◎グンゼ／生産・販売統合の一気通貫体制を目指し組織改編、企業ポータルを開発

野中ともよ

さん



●のなかともよ
東京都出身。上智大学大学院文学研究科博士前期課程修了。ジャーナリスト。1979年よりNHK、テレビ東京などで番組キャスターを務める。日興ファイナンシャル・インテリジョンズ(株)理事長。アサヒ審議会、中央教育審議会委員などを兼務。著書に「ガンバレ自分」(集英社)など。

輝いて生きよう! —楽しく生きるためのキーワードは“笑顔”と“感謝”

今、地球一週2秒で全世界の人々とコミュニケーションができる世の中になりました。でも、そういう時代にあって、昔と何ら変わっていないもの、それが私たちの命です。命の賞味期限は、江戸時代より数十年は伸びてはいますが、それでも、200年にまで伸びてはいませんもの(笑)。

人の命のありようは、まず自分の意志では生まれてこられないこと。弥生時代をもっと遡れるくらいの昔から一回もバトンを落とさずに連綿と続くバトンタッチで、今の自分という命があるのです。

このことに気づいて、「君たちの国ではどんなふう?」と地球の裏側の人とも瞬時に話せる時代に私たちは生きているのです。まず、このことに感謝しない手はありませんね。

そして、私たちは、コミュニケーションのために、Hello、こんにちわ、オッス、ニーハオ等々、いろいろな違うコードを持っていました。このコードを知らないとコミュニケーションできないけれど、共通語がありますね。それは、“笑顔”です。笑顔こそ人類共通の言語です。それは「会えてよかった。生きててよかった。私が私でよかった」と。

私たちは、みな一人ひとり、ひとつの命を授かりました。母親の胎内で育まれ、オヤヤアと生まれ出て、死の瞬間に向かうまでの時間の連鎖が「人生」です。人生の主人公は、誰でもない自分自身。自分の人生の主人公になるということは、一言でいえば「人のせいにしない」ということです。

「親父がアホやからねー。おふくろはバカやけんねえー」、「親父は脚が短くてさー。おふくろがデブだからさー」とPL法(製造物責任)を適用したがるんです(笑)。でも、私たちは先天的にいただいたものでも、後天の力で変えたいと思えば変えることができる。自分の命に素直になり、感謝し、自分だけにしかできないことへのチャレンジを楽しむ。そうした時間を持つことのできる人は、とても輝いていることでしょう。

自分の命に感謝する思いは、他の命に感謝することにもつながります。世の中には、腹が立つ相手もいっぱいいますが、「こんな人間になるな、ということを教えてくれてありがとう」と思えば、プラスのエネルギーになります。

せっかくいただいた命です。“楽しく生きる”ことが大切です。野中流によると、楽しく生きるということは、昭和の高度成長期に追い求めた、お金を担保にした、酒池肉林、ブランド志向、ボーナス倍増などといったものではないのです。「会えてよかった」です。これは、お金を積んでもできないこと。今、そのことに気が付ける世の中になったのです。自分をわかってくれる仲間、愛してくれる人々、自分を頼ってくれる子供達、これらはありがたいものの固まりでしょう(笑)。これに気がつけば会社勤めに忙しくて楽しく生きられないなんて、冗談ではありません。

世の中には、いろいろな「モノサシ」があるものです。顔のつくり、学歴、勤務先、預金残高、運動能力エトセトラ。あまたあるモノサシの中でも一番パワフルだったのはGNPへの貢献度。つまり、「お金」の目盛りが見え隠れするものでしたね、この50数年は。

時は流れ、国際化やらボーダーレス化が叫ばれる時代になりました。たまり水の阿吽の常識やモノサシがさまざまな分野で破綻をきたし始めています。さあ、ピンチです。でもこれはとても素敵なチャンスの時代だともいえそうです。

つまらない常識や因習や、いろいろに存在する“モノサシ”に惑わされることなく、健康で、生きていてよかったな、と思いながら生きていく、そんな人生を楽しく生きていくではありませんか。広く大きなアンテナをはって、地球に起るアレコレを味わいながら、そんなすべてを心の光にしてしまう「地球人」。あなたは、地球でたったひとりしかいない超レアものの「あなた」なのですから。